

「肝心閑話」

校訓：自主 責任 奉仕 協力

(文責：校長)

よく学び、共に生きる生徒 ①正しく考える ②愛する ③尊ぶ

確かな学力 思いやりの心・たくましい体 豊かな人間性 主体的な生活設計 郷土を愛し、郷土に生きる力



「おはようございます。」「ありがとうございます。」「しあわせだなあ。」「すみません。」

学校の「きまり」を変える。

近年、全国的に学校のきまり「校則」について、見直しの風潮が高まっています。2019年に映画やTVドラマでも放映された「ブラック校則」の影響もあるでしょうし、東進ハイスクールの講師でタレントの林公氏が、「日本の学校のきまりは150年間も変わっていない」等と発言したことも影響しているのでしょう。



古くは、1990年に千葉県の高校生だったはやしたけし君が「ふざけるな！きまり」という本を出したこともあり、神戸では中学生男子の丸刈り論争が起き、全面撤廃されたのは1995年の大震災の年でした。

本校では、昨年のこの時期に、「きまり」改定を全校生徒に発表しました。

ところで、「きまり」について、「マナー」、「ルール」、「モラル」という似た言葉があります。「食事の時に口をあけずに噛んで食べよう」は「マナー」、「8時20分までに登校しよう」は「ルール」、「5分前に行動を開始しよう」は「モラル」でしょう。学校のきまりは学校生活を送るうえでの約束事ですから、＝「ルール」と考えられます。

ところで、スポーツにもルールがありますが、本来、なぜ、ルールはあるのでしょうか？

スポーツのルールは、ゲームをする側、見る側の「快」の追求にあると考えられます。すなわち、ゲームをする者にも、ゲームを見る者にも、無用なトラブルをなくし、ゲームをよりよく楽しむために設定されたものです。より楽しめるために、時代とともに、スポーツのルールは改変されてきました。

時代とともにルールがいろいろと変わってきた一番のスポーツは「バレーボール」です。1895年、モルガンがバレーボールを考案したのは、その4年前にネイ・スミスが考案したバスケットボールの反省からでした。当時、YMCAの体育館で冬のスポーツとして行われていたバスケットボールでは、高齢者や体力のない者は、体育館の壁にくっついてしり込みし、動かなかったのだそうです。そこで、老若男女が一緒に楽しめるスポーツとしてモルガンが考案したのがバレーボールでした。

当時は「ミントネット」と呼ばれており、モルガンが最初に考えたルールは、

- ①競技人数や触球回数に制限なし、②3アウトで攻守（サーブ権）が交替、
③9イニング制、④サーブは味方に打ち、相手コートに入れる、などでした。

現在、バレーボールには、オリンピックでやられている6人制や2人制のビーチバレーだけでなく、ママさんバレーや実業団などでされている9人制や4人制のトリムバレー、シットイングバレーボールなど、多種多彩で実施されています。

学校のきまりも同じです。学校生活をみんなが楽しく、快適にできるために、考え出されてきたものです。そして、このきまりは、話し合いによって改変できます。スポーツにルールにも、学校のきまりにも、それぞれ、それが設定された歴史があります。その意思を尊重し、しっかり守りながら、その一方で、より楽しく快適に生活できるように改変していく姿勢をもつことが大切だと思います。



先週、神戸しあわせの村の
神戸シルバーカレッジで、
シットイングバレーボール
全日本合宿を行いました。

1月18日「振袖火事の日」

最近「消防団」に入っている方はほとんどいないと思いますが、私の住んでいる名谷には、昔から名谷消防団というのがあり、若い男は入団するよう勧められました。私も高校生から大学生の一時期、入団して、様々な活動を行っていましたが、昔は「地震」「雷」「火事」「親父」といわれてきたように、木造建築が多かった時代、火事は大変恐れられていました。その頃、消防団で教えてもらった怖いお話です。



江戸の上野に住んでいた神商大増屋十右衛門の娘、おきくは、花見の時に美しい寺小姓を見初め、小姓が着ていた着物の色模様に似せた振袖をこしらえてもらい、毎日寺小姓を想い続けました。しかし、恋の病に臥せったまま、1655（明暦元）年1月16日、16歳で亡くなってしまいました。

寺では法事が済むと、しきたり通り、その振袖は古着屋に売り払いました。そして、振袖は本郷元町の麴屋吉兵衛の娘、お花の手に渡りましたが、それ以来、お花は病気になる、明暦2年の1月16日に死亡しました。

振袖は再び古着屋の手を経て、麻布の質屋伊勢屋五兵衛の娘、おたつのもとに渡りましたが、おたつも同じように、明暦3年の1月16日に亡くなりました。

おたつの葬儀（1657（明暦3）年1月18日）に、十右衛門夫婦と吉兵衛夫婦もたまたま来ており、三家は相談して、因縁の振り袖を本妙寺で供養してもらうことにしました。

しかし、和尚が読経しながら振袖を火の中に投げ込んだ瞬間、突如吹いたつむじ風によって振袖が舞い上がって本堂に飛び込み、それが燃え広がって江戸中が大火となりました。この大火が「振袖火事」と呼ばれるもので、江戸城天守閣と市街のほとんどを焼失してしまったのだそうです。正式には、江戸三大大火と呼ばれる『明暦の大火』で、死者はなんと10万人にもおよぶ、現在でも震災や戦禍によるものをのぞけば、日本史上最大で最悪の火災だと言われています。

私の教え子で、高校入試の直前に自宅が全焼するという不幸にみまわれた生徒がおりました。受験票も燃えてしまいました。家族全員が無事で、その後、なんとか高校には合格できたものの、焼失した物は戻ってきません。原因は隣家の漏電でした。それも、電気コードをたくさん束ねたことによる人為的なミスだったそうです。

また、これまで同僚だった先生で、ご自宅が全焼されたという経験のある方が2家族もおられます。

木造建築物が少なくなった今でも、火事はやはり怖いものです。あの阪神・淡路大震災の時は、消防車が殆ど役に立たず、火災による被害が広がりました。発生した火事に対して絶対的に消防車が不足していたこともその主たる原因でありましたが、他府県から集まった消防車が、規格が違ってホースを連結できなかったことや避難する自家用車に消防車のホースを踏まれ、使用できなくなったことも原因の一つでした。

火事は初期対応をミスすると、手がつけれなくなります。この教訓は、火事だけでなく、危険なこと全てに当てはまるでしょう。生徒指導もクレーム対応も、初期対応がとても大切です。

もっとも、一番大切なことは、火事が起こらないように普段から防火対策をするのと同じように、事件や事故が発生しないように普段から予防に力を注いでおくことです。

「不苦勞五箇条」とりのこさんしょう（栃木県・茨城県境の鷲子山上神社「ふくろうの神社」）

- | | |
|--------------------------|--------------------------|
| 一、常に 笑顔 を心掛けること。 | 一、常に 感謝 を心掛けること。 |
| 一、常に 健康 を心掛けること。 | 一、常に 人の為 に心掛けること。 |
| 一、常に 神参り を心掛けること。 | |



ふくろうは「福来朗」や「不苦勞」と書けることから、幸運を呼ぶ吉鳥とされています。

また、ヨーロッパでは知恵の象徴とされていて、ハリー・ポッターシリーズにも登場しています。